

第18回日伯フォーラム & 第3回環境災害研究会 『ブラジルの都市・環境災害とその解決方法について』

【開催趣旨】

世界で最も環境に配慮した国といわれるブラジルですが、そこは文明の発達とそれにともなう都市公害と、都市からの排水・廃棄物と周辺環境との絶え間なるせめぎ合いの場所でもあります。加えて、1980年代から急激に始まったアマゾン流域の開発と生態系保全など、地球規模と言える様々な環境問題を抱えています。また2015年に鉱山排水を蓄えたマリアナのBento Rodrigues 貯水池が決壊し、Doce川に濁水とともに汚染物質が流れ出て、17日後には大西洋に達する事故がありました。

しかしながらブラジルは、1990年に国連環境計画賞を受賞した環境都市クリチバを有し、バイオエタノールを導入し、様々な面で世界の環境問題解決の先駆的役割を果たしています。

今回のフォーラムでは、ブラジルの都市環境問題とその解決策、ミナスジェライス州の特定開発現場における環境保全の課題について、そしてマリアナダム決壊事故について報告し、ブラジルの環境災害とその地球規模の解決策について議論します。また、世界共通の環境災害についての、カリフォルニア大学の研究者からの報告も交えて、地球規模で増加する環境災害についても考えてゆきたいと思います。



主催: 京都大学大学院総合生存学館 環境災害研究会

共催: 日本ブラジルかけ橋の会

日時: 2017年10月28日(土曜日) 13:30—17:00

会場: 京都大学東一条館 大講義室201

京都市左京区吉田中阿達町1 京都大学 大学院 総合生存学館(思修館)

<https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/access>

定員: 50名

プログラム

13:30-13:40

開会挨拶（京大思修館環境災害研究会・日伯かけはしの会）

13:40-14:20

講演1:「ブラジルの都市問題論への貢献:日本近代都市計画史観からの都市と環境保全について」

講師: アンドレア百合フロレス漆間 (Andrea Flores Urushima)

京都大学東南アジア地域研究研究所・特定助教

14:20-15:00

講演2:「ミナスジェライス州の特定開発現場における環境保全の課題」

講師: 小野奈々 滋賀県立大学環境科学部助教

15:10-15:50

講演3:「水資源に関わる各大陸での環境災害と、その共通性」

講師: ダニエル・ノーバー カリフォルニア大学マーセッド校研究員

Global scale extreme events, environmental disaster and managing water resources, Dr. Daniel Nover, Researcher, University of California Merced

15:50-16:50

パネルディスカッション

司会および環境災害報告

山敷庸亮(京都大学大学院総合生存学館教授)

「ブラジル・マリアナにおけるBento Rodrigues 貯水池決壊事故について」

パネラー 上記講演者に加えて

萩原八郎(日本ブラジルかけ橋の会代表/四国大学教授)

泉 拓良(京都大学大学院総合生存学館特任教授)

16:50

閉会挨拶

申し込み

環境災害研究会 へてに「ブラジル環境会議」と題してメールください

envhazards@gsais.kyoto-u.ac.jp

講師プロフィール・ブラジルとの関わり



アンドレア百合フロレス漆間 (Andrea Flores Urushima)
(京都大学東南アジア地域研究研究所・特定助教)

ブラジル・サンパウロ出身。サンパウロ大学建築学部卒。京都大学大学院人間環境学研究科博士後期課程修了(2008) 博士(人間環境学)。ブラジル・日本の都市計画と、人間・環境問題について様々な先進的な研究を行う。日本とブラジルの都市問題比較研究会を京都とサンパウロで開催し、両国での研究交流を推進する。

小野 奈々 (Nana Ono)
(滋賀県立大学環境科学部助教)

神奈川県横浜市出身。日伯17期生として1997年にサンパウロ州サンベルナルド・ド・カンポ市にあるCENTRO EDUCACIONAL HARMONIAで研修。筑波大学人文社会科学研究科で博士号(社会学)を取得(2008)。その後、信州大学経済学部での勤務を経て、現在、滋賀県立大学環境科学部に勤務。専門は、環境社会学、ボランティア論。



ダニエル・ノーバー (Daniel Nover)
(カリフォルニア大学マーセッド校研究員)

合衆国ロード・アイランド州ウェークフィールド市出身。マギル(McGill)大学、ミシガン技術大学修士、カリフォルニア大学デービス校博士課程修了、Ph.D. USDA, EPA, USAIDなどで勤務。アジアで3年、アフリカで3年の国際協力経験がある。水資源・水環境に関する様々な現場を経験し、国際的研究プロジェクトの立案と実施を行う。



萩原 八郎 (Hachiro Hagiwara)
(日本ブラジルかけ橋の会共同代表／四国大学経営情報学部教授)

東京都出身。早稲田大学教育学部卒。日伯7期生としてサンパウロ大学で研修。立正大学大学院文学研究科認定退学。外務省在ブラジル日本大使館専門調査員などを経て、現職。専門は都市地理学とラテンアメリカ地域研究。著書に「ブラジルの都市問題-貧困と格差を超えて」(編)などがある。



泉 拓良 (Takura Izumi)
(京都大学大学院総合生存学館 特定教授)

神奈川県出身。京都大学大学院文学研究科博士課程中退・京都大学助手・奈良大学講師・京都大学大学院文学研究科教授(京都大学名誉教授)を経て現職。先史時代の考古学を専門とし、世界各地での古代文明の調査を行う。



山敷 庸亮 (Yosuke Alexandre Yamashiki)
(京都大学大学院総合生存学館 教授 専攻長)

滋賀県大津市出身。京都大学工学部、サンパウロ大学修士課程、京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了・博士(工学)。NGO, UNEP-IETC, 日本大学准教授、京都大学防災研究所准教授、サンパウロ大学客員教授などを経て現職。UNEP勤務時代より、ラ・プラタ川流域のネットワーク構築を主体的に行なっていたが、原発事故をきっかけに福島周辺の河川調査などを行う。日伯11期生としてサンパウロ大学で研修。

